

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成29年度第2四半期（平成29年7月～9月）

1. 治安情勢

- 9月18日、マハラシュトラ州タネ市において、インドにおける最重要指名手配被疑者のダウド・イブラヒムの弟であるイクバル・カスカル容疑者が恐喝事件を主導した疑いでタネ市警察に逮捕された。同人は、タネ市の不動産業の男性を恐喝した疑いが持たれている。
- 7月10日、マディアプラディッシュ州警察は、州内のバラガードとマンドラ地区においてマオイストが新たな活動の拠点を設けて活動を活発化させているとしてハイ・アラートを発出した。同情報は本年4月に逮捕したマオイストのメンバーの供述から明らかになった。
- 8月9日、マディアプラディッシュ州ATS（テロ対策局）は、パンジャブ警察との合同摘発により、パキスタンの軍統合情報局ISIの直接の支援を受けているとみられている国際テロ組織Sikh Youth Federationのメンバー3人を逮捕した。3人は、パンジャブ州での要人の殺害を目的に仲間に武器を提供していた。

2. 邦人に係る一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

- ア 殺人
邦人被害の事件は認知していない。
- イ 強盗
邦人被害の事件は認知していない。
- ウ 強姦
邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6. 犯罪統計

ムンバイ市警察本部は、2017年1月1日から9月30日までに認知した犯罪件数について統計を発表した。主な犯罪の認知件数は以下のとおり。

- 殺人 98件（前年同時期対比 -14件）
- 強盗 656件（同 +60件）
- 傷害 3,436件（同 -93件）
- 恐喝 135件（同 -57件）
- 強姦 525件（同 -1件）
- 窃盗 4,932件（同 -154件）
- チェーン・

スナッチング(※) 136件(同 ー226件)

(※) 女性が首等に身につけている貴金属をひったくる犯罪

犯罪発生状況は、強盗の件数が増加している他は、ほぼ横ばいの状況である。

邦人が被害に遭った事案については、昨年単独の邦人旅行者を狙った睡眠薬強盗被害が相次いで発生した。手口はいずれも親しげに近づいてきて打ち解けたところで睡眠薬入りの飲食物を勧められて昏睡したところを金品を窃取するというものであったことから、不用意に誘いに乗らず、飲食物等勧められても毅然と断る姿勢が必要である。

現地人によるガイドの申し出を受けて一緒に観光し、手荷物持ち込み禁止の寺院に立ち寄った際に「自分が見ていてやるから大丈夫だ」と言われて荷物を預けたところ、そのまま荷物を持ち去られるケースも数件発生しているので、ガイドの手配は正規の代理店を通じて行うべきである。

また旅行者が多いエリアにおいてはスリ被害も発生していることから、人の多いエリアでは携帯品の管理に十分注意する必要がある。